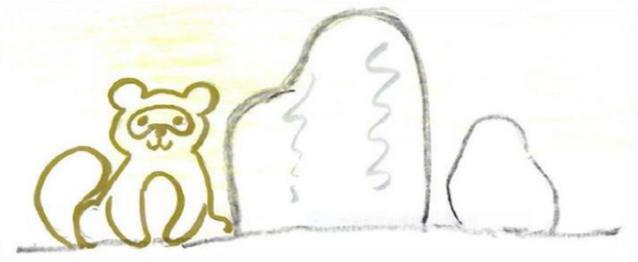


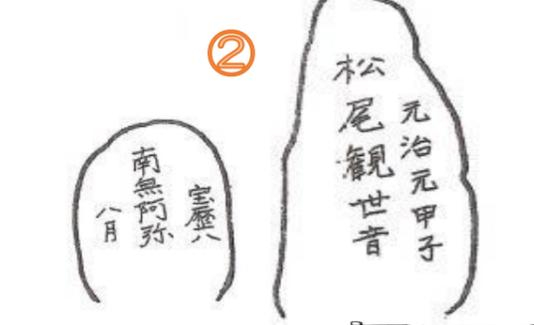
石碑から学ぶ大沢の歴史



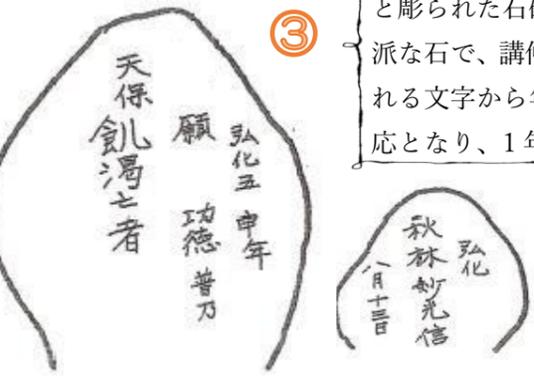
石碑散策マップ



①大小の石碑が一列に並んでいます。区画整理した際に、この場所に移築された可能性が高く、右から5番目の小さな石には蛇塚と刻されています。蛇塚は全国各地にあり、由来は諸説ありますが、水との関係が考えられます。

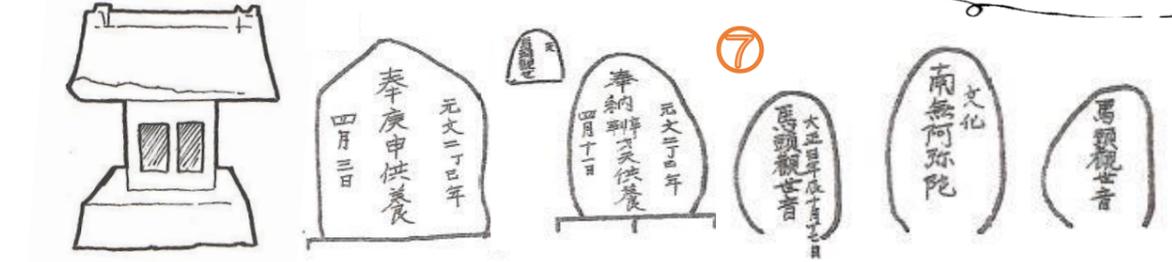


②地蔵堂の脇の坂道を登ると、堂の傍らに「松尾」と彫られた石碑があります。文字の彫りが深く立派な石で、講仲間で建てたと思われます。読み取れる文字から年号が「元治」と判明。翌年から慶応となり、1年だけの年号でとても希少です。

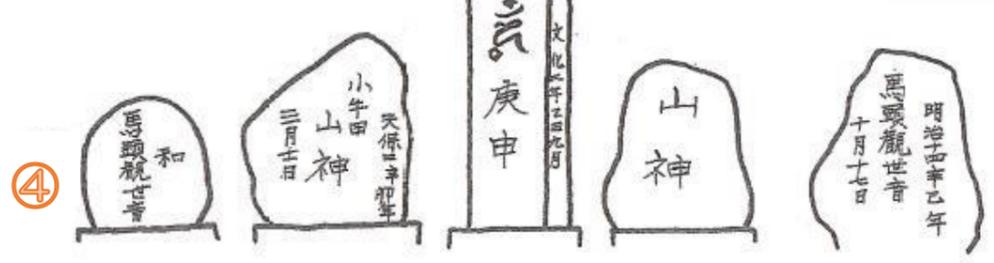


③江戸時代の三大飢饉のひとつ、天保の飢饉の時、仙台城下からこの地に食べ物を求めてたどり着き、力尽きて亡くなった人々を供養したものと伝えられています。供養碑の南側の低い丘に古い墓石のようなものが多数あります。

⑥赤子を抱いた母親と思われる像なのだ。鬼子母神かもと話題になった。鬼子母神は、今でこそ「子育てや出産の神」として信仰されているが、元々は500人の自分の子を持ちながらその子らを育てる為に、他人の子を食ったという。確かに鬼！？その後仏に諭され守護神になったそう。深い!!! 関心のある方は、是非現地へどうぞ。



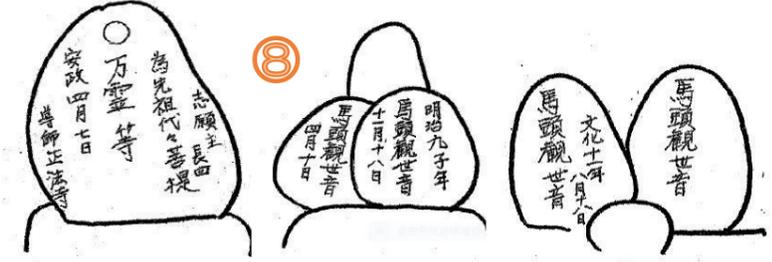
⑦民家の入口にある石碑群です。大きさや時代が様々な馬頭観音や、家の形をした祠のようなものがあり、その中には大黒天とおぼしき仏像が安置されています。辨才天(べんざいてん) 供養の石碑もあります。



④荒神館登り口にある石碑群です。馬頭観世音の他に山神や庚申の石碑があり、様々な「講」の活動が行われていたようです。また、大きく彫の深い立派な石碑があり、お金と労力をかけて作られたようです。



⑤要害の坂下にあります。山神(やまのかみ)、黄金山(こがねやま)神社、古峰(ふるみね)神社と書かれた石碑もあり、この地域で「小牛田山神社参り」「金華山参り」など、「講」として遠くの神社まで足を運んでいたことがわかります。



⑧大きな石碑が建立された安政年間は大地震が連発し、仙台も大火事や自然災害が続きました。先祖供養とともに、万物霊も吊っており、現在も花が手向けられています。馬頭観世音は愛馬の無病息災と死を吊う意味があり、馬が人々の生活に密着していたことが伺えます。

(注) ★実際の縮尺値ではありません。ご了承ください。★